

1 単元名 3 点画のせし方と間かく 『日記』

2 単元について

本単元では『日記』を題材として、点画の接し方と横画の間隔について理解し、字形を整えて書くことをねらいとしている。点画の接し方、横画の間隔はともに硬筆で既に学習しているが、特に接し方については、毛筆で書くことにより、硬筆で見分けにくく、書き分けにくい点画の接し方を理解することが容易になり、習熟を図ることができる。

横画の間隔を均等にすることは、字形を整えるための大きな要素であり、多くの文字に適応される知識・技能である。実際に毛筆で『日』を書くときには、三画目の始筆を一画目の縦画の半分より上に置かないと、四画目を縦画の内側に収めることができなくなる。

点画の接し方は、『日』と『口』の閉じ方の違いをつかませる。理解していても、『日』では一画目の縦画より二画目の縦画が、『口』では二画目の縦画よりも一画目の縦画が少し長く書けていないと、正しい接し方にすることはできない。長さの違いが必要であることを実感させた上で、習熟していくようにする。

本学級の児童は、日頃から丁寧に整った文字を書くことのできる児童が多くいる一方で、字形を整えることができない児童や、文字を書く際に「読み手を意識して心を込めて書くこと」ができない児童もいる。文字の構成やつくりについて、知識として理解してはいるものの、既習事項を自らの文字に表出させることは難しいようである。児童に気付かせたい部分（点画の接し方）においては隠して提示したり、試書と教材文字を細部まで見比べたりすることで、横画と縦画のどちらが長いのかを意識させたい。本単元は、「文字の組み立て」の一環と言える学習内容である。そのため、筆使い等の技能面の向上よりも、「点画の接し方の原理原則を見つけて一般化する」という思考面の深化を図りたい。一般化するにあたり、タブレット端末の「発表ノート」を活用する。児童が点画の接し方の原理原則を納得した上で毛筆練習を行うことで、より定着するだろうと考える。

3 単元の目標

○点画の接し方や「横画」の間隔について理解し、気をつけて書くことができる。【知識及び技能】

○点画の接し方や「横画」の間隔の違いに気をつけて字形を整えて書くことができる。【知識及び技能】

○点画の接し方の違いや「横画」の間隔を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。

【知識及び技能】

○点画の接し方のきまりや横画の間隔についてよく考えている。【思考力、判断力、表現力等】

○常に点画の接し方と横画の間隔に気をつけて字形を整えて書こうとする意識をもっている。

【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（3時間扱い）

時	内容	目標	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 本 時	3 点画の せし方と 間かく 『日記』	点画の接し方や「横画」の間隔について理解し、字形を整えて書くことができる。	点画の接し方の違いを理解し、気を付けて書いている。（毛筆）	点画の接し方の違いについて考えている。	他の文字についても、点画の接し方の違いを意識して見付けようとしている。
2			点画の接し方や間隔に気を付けて、字形を整えて書いている。（毛筆）	点画の接し方や「横画」の間隔について考えている。	
3			点画の接し方や間隔に気を付けて、字形を整えて書いている。（硬筆）		他の文字でも、点画の接し方や間隔に気を付けて、字形を整えて書こうとしている。

5 本時の指導（1／3）

（1）目標

○点画の接し方の違いについて考えている。【思考力、判断力、表現力等】

○点画の接し方の違いとそのきまりに気をつけて字形を整えて書くことができる。【知識及び技能】

（2）授業の視点

視点1 自ら学ぶ力を高めるための知識・技能の習得

手立て 点画の接し方の原理原則を理解させるためのタブレット端末の活用

点画の接し方は、「口」のように「内部に何もない文字は3画目の横画が2画目の縦画よりも出る」ように書き、「田」や「日」のように「内部に点画等がある文字は2画目の縦画が出る」ように書くというきまり（原理原則）がある。そのきまりに気付かせるために、タブレット端末を活用する。提示された文字の出ている部分を色分けして囲み、見比べて共通点を探すことで接し方のきまり（原理原則）に気付けるようにしたい。

視点2 自ら考えるための思考力・判断力・表現力の育成

手立て 点画の接している部分を隠した文字の提示および試書の文字と教材文字の比較

児童が点画の接し方に注目できるように、接している部分を隠した文字を提示する。また、硬筆での試書文字と教材文字を比較することで、児童が正しい点画の接し方とその違いに気付けるようにし、本時のめあてを意識して毛筆練習に取り組めるようにしたい。

視点3 日常や将来に生かすための学びに向かう力の涵養

手立て 学習過程の工夫

本学級の児童は、横画の間隔を均等にして書くことができている児童は多いが、点画の正しい接し方を意識できている児童は少ない。その実態を踏まえると、「正しい点画の接し方」を先に取り上げ、「横画の均等な間隔」を次時に取り上げる方が、学習効果があると考えられる。そこで、1時間目に点画の接し方について重点的に学習し、2時間目に横画の間隔を中心に学習することとする。

これまでの書写の学習では、教材文字を用いてねらいとなる基準を確認し、教材文字を書けるようにした後に、他にも同じ基準が当てはまる文字を探すことで日常化を図っていくという学習過程が多かった。しかし、本学級の児童の実態や、児童の思考および理解のしやすさ等を考慮すると、様々な文字を見比べて原理原則に気付いたり一般化を図ったりした後、教材文字を用いた毛筆練習を行う方が、理解した内容を文字に表出させやすいのではないかと考えられる。そこで、学習過程を工夫し、日常の様々な文字を学習の始めに提示することで、他の文字にも活用させる意欲を高め、日常化につなげたい。

また、教材文字「日記」での学習後は、点画の接し方の原理原則をより意識して書けるようにするために、関連した文字を硬筆で書く時間を1時間設け、点画の接し方についての理解を深め、日常書く文字に活用できるようにしたい。

(3) 展開

過程	学習活動と内容	○教師の指導、支援 ◇評価	資料等
目標把握	1 「日」「記」の試書と教材文字を見比べる。     ・「日」の縦画が少し出る。 ・「記」の「口」部分の1画目の縦画と3画目の横画が少し出る。 ・「己」部分2画目の横画が少し出る。 2 本時のめあてを知る。 画のせし方に気をつけて書こう。	○点画の接し方に意識を向かせるために、初めは接し方部分を隠した文字を提示する。その後に拡大した試書と拡大した教材文字を黒板に貼り、接し方とその違いについて話し合うように声をかける。 ◇点画の接し方の違いについて考えている。【思考力・判断力・表現力等】	接し方部分を隠した文字 拡大した試書 拡大した教材文字

一般化	3 接し方の原理原則に気付く。 ・内部に何もない場合…横画が出る。 ・内部に点画等がある場合…縦画がでる。	○横画が出る場合と縦画が出る場合があることを確認し、「発表ノート」の課題に取り組むように声をかける。 ○「発表ノート」上に漢字をいくつか提示し、画の接し方を書き込めるシートを事前に作っておく。縦画が出る箇所を色分けしてチェックする活動を行うことで、児童の理解度を確認する。 ○課題に取り組む際に、横画が出る場合は青で囲み、縦画が出る場合は赤で囲むように指定する。 ○色分けした文字を見比べて気付いたことを共有し、一般化を図る。	タブレット 端末
基準確認	4 「日記」の点画の接し方を確かめる。 ・「日」…4画目の縦画が出る。 ・「記」…7画目の横画と9画目の横画が出る。 ・「日」の1画目の縦画と「記」の5画目の縦画は出る。	○点画の接し方の原理原則が「日」「記」ではどのように当てはまるかを再度確認する。 ○拡大した教材文字に、児童の課題と同じ色（横画が出る場合は青で、縦画が出る場合は赤）で印を付けることにより、基準を理解しやすくする。また、児童に、同様の印を教科書に書くように促す。	
練習	5 練習する。	○まず始めにかご字の練習用紙に取り組むとよいことを伝え、点画の接し方を意識しながらも、文字の大きさや正しい字形に気を付けて書けるようにする。 ○半紙は縦横半分に折ってから書いてもよいことを伝える。 ○文字を書く時の姿勢や筆の角度に気を付けるように声をかけ、意識化を図る。	毛筆の道具 練習用紙 (かご字)

ま と め	6 学習のまとめをする。 ・まとめ書きする。 ・隣同士で画の接し方を確かめる。	○友達と見合い、点画の接し方においてよくできているところをお互いに伝え合ったり助言したりすることで、児童が基準の達成度を確かめられるようにする。 ◇点画の接し方の違いとそのきまりに気をつけて字形を整えて書くことができる。【知識及び技能】	
-------------	---	--	--

(4) 板書計画

水書板

日

たて画が出る

記

横画が出る

左はじのたて画は出る。

中に画などがある時↓ たて画が出る。

きまり

中に何もない時 ↓ 横画が出る。

画のせつし方に気をつけて書こう。

日

日

記

記

試書で多かった文字を
拡大して提示する。